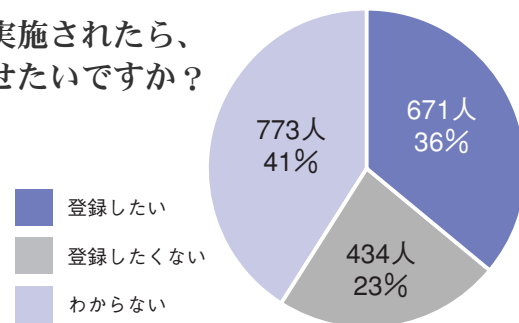


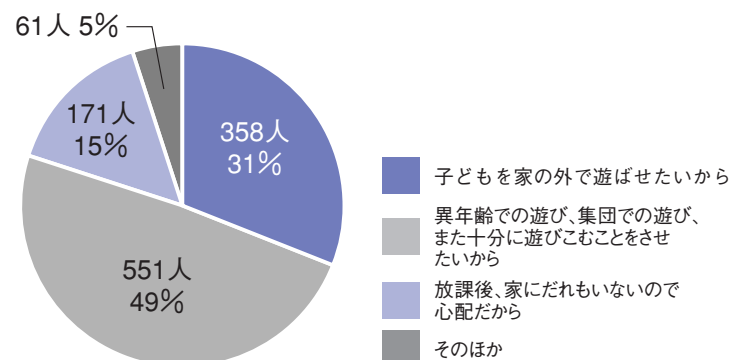
放課後、どう過ごす？

放課後子ども教室 未実施校 保護者アンケート

Q わいわいランドが実施されたら、お子さんを登録させたいですか？



Q 登録したいという理由は何ですか。(複数回答可)



人とのかわわりを体験

「自分」の考えを正しく相手に伝えることや、集団の中で人間関係を築いていくことが苦手な子が増えていると言われています。また、さまざまなことを体験できずに大きくなり、

社会の中で存在感を見い出せない子どももいるのではないのでしょうか」と説明するのは、教育委員会ではわいわいランド(放課後子ども教室)事業を担当する子ども支援係の洪田見係長。

5月以降、市がこの事業を全地域に広げようとする背景には、異年齢の遊び仲間や地域の人など、多くの人と接することで、人とのかわわりを

体験する機会を増やそうとする意図もあります。

「昔のよう」にさまざま

社会教育課 子ども支援係長
洪田見 房子

まな立場の人、世代の違う人とかかわれない環境が原因だとすれば、地域全体で考えていく必要があります。この問題は、学校や関係者だけで解決するには、限界があるだろうと考えています」と洪田見係長。組織の運営には、地域住民の力が欠かせないと話します。

「まずは、地域の力になりたいと考えてくれるスタッフがどのくらい確保できるかが鍵。この事業は、地域の皆さん、保護者、さまざまな特技を教えていただける方など多くの人の協力がなければ成り立ちません。地域の皆さんと知恵を絞って、何とか実現させたい」。

子どもたちが抱える「遊び場」の事情



ジレンマ

子どもを取り巻く社会環境は、ここ数十年で、大きく変化しました。

「私たちの時代と違って、今は安全に遊べる場所が少なくなってきた」。そう指摘するのは、市内の小学3年生のある母親。

「帰り道に田んぼなどで好きなように遊んでいた昔と違い、交通事故や不審者情報など、安全面で不安を抱え、子どもたちには気の毒な状況」と言います。そして、「二人で遊ばせるには危険だし、そうすると結局、子どもは家でテレビを見ているか、テレビゲームばかりしてしまう」と、現状にジレンマを感じています。

昨年8月、わいわいランド未実施地域で行った調査結果では、わいわいランドに子どもを登録したいと考える親は36%で、その理由は「異年齢の子どもとの遊び、集団での遊び、十分な遊び込みをさせたい」が49%、「子どもを外で遊ばせたい」が31%となっています。このことから、子どもの遊び場所、遊び方に不安を持っている保護者が少なくない状況がうかがえます。